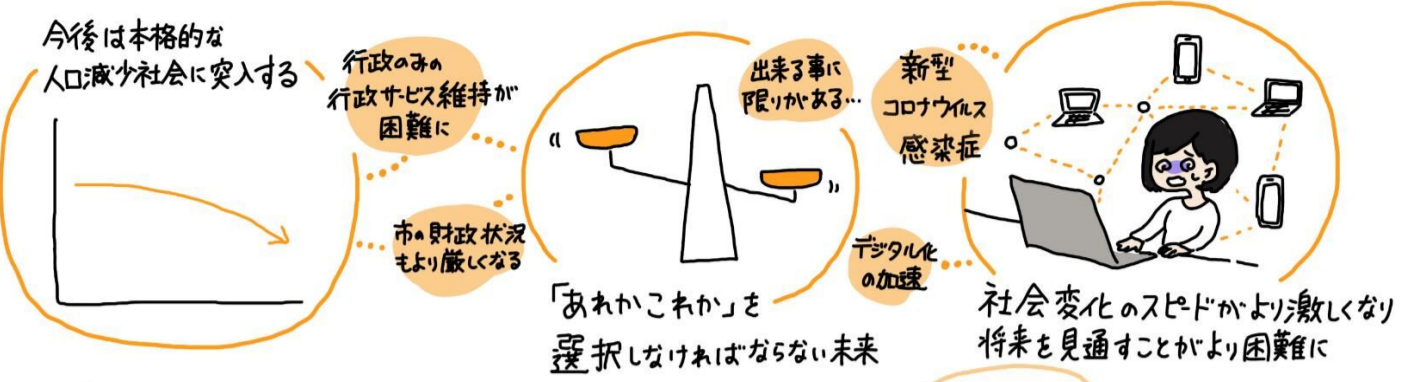


第4次 行財政改革推進大綱の全体像

考え方 変化のスピードがより激しく、より層先を見通すことが難しい時代を前提とした行財政運営へ

行財政改革ってどうして必要なの？
 限りある行政の資源の中で、その時の社会情勢に応じた最適な行財政運営を目指すため



現役世代はもちろん、未来の静岡市に住む皆さんの生活をより豊かにすることが目的なんです

求められていること

- 社会変化の機微を察知
- 市民や民間企業等の多様な関係者との対話を重ね、連携を深めること
- 新たな価値を生み出す
- 柔軟かつ迅速に対応できる



基本理念 2040年を見据え目指す行財政運営の姿

市役所が変化に迅速かつしなやかに対応できる頼もしい組織となり、市民、企業等との連携により新たな価値を創造する行財政運営の推進

① 地域が持続的に発展していくために、市民協働・公民連携の推進により新たな価値を生み出している

行政情報の積極的な公開

連携の促進

民間企業、市民、行政

若者が地域に関わる仕組み

知る、参加、愛着

民間企業のスピード感

経営感覚

円滑なコミュニケーションのとれる職員の育成

市政に関心を持ち、まちづくりに参画する市民が様々な場面で活躍

それぞれが強みを活かす

連携の推進により新たな価値を創造

② 長期的な展望に立ち、市民に最適な行政サービスを生み出し続けるために、変化に迅速かつしなやかに対応できる頼もしい組織へと変化している

デジタル完結の実現

AIなどの創発的技術を使いこなし、庁内業務の多くがデジタルで完結

市民が来庁せずに手続きを完結することができている

生産性向上

就労満足度向上

働きやすく活気ある組織となることで、有能な人材が多く市に入庁

職員が利用者目線に立ちサービスの創出に取り込む

変化にしなやかに対応する頼もしい組織

③ 戦略的な政策の展開や、市民ニーズに沿った行政サービスを提供し続けるために、健全な財政基盤を堅持している

長期的な視点に立つ

時期を逸すことなく戦略的な財政出動

行政評価や事業の見直し等の賢い支出に向けた取組

市所有の土地建物の有効活用・計画的な管理

地域経済活性化に向けた投資による好循環 など

健全な財政状況の堅持

基本方針 目指す姿の実現に向けた改革の方針

人とつながる

多様な主体との連携をより層進める

取組のイメージ

- シキズンシップに富んだ人材の育成
- 市民と社会に参画しその役割を果たすこと
- 「静岡シキズンカレッジ」による地域人材の育成
- 連携推進に向けた仕組みの構築
- 窓口機能の設置
- 民間目線を持ち伴走できる職員の育成
- 積極的な情報発信

仕事の仕組みを変える

従来からの課題解決や業務の質向上

取組のイメージ

- 行政DXを推進し、業務プロセスを改革
- 行政内部のデジタル完結に向けた業務プロセス改善
- データ等を活用した政策立案に向けた環境整備
- データ活用に向けた利用環境の整備
- 仕組み化
- 職員がライフステージに合わせて柔軟に働く事ができる環境の整備
- リモートワーク等の更なる推進

人や組織が変わる

変化にしなやかな人材や組織づくり

取組のイメージ

- 職員が自分の役割を再認識する機会の提供
- 仕事の意義
- 市民サービス向上のために私ができる事は？
- 当事者意識の一層の醸成
- 変化する行政需要に対応できる組織運営や人材育成に取り組む
- デジタル人材
- 専門性
- 組織体制の整備
- 職員の定年延長への対応

財政基盤を堅持する

健全な財政状況の堅持

取組のイメージ

- 効率的な予算執行や財源確保
- 中長期的な視点に立った財源対策
- 役に立つ行政評価に向けた年度の見直し
- 2040年に向けた取り組み
- 地方公営企業の経営改善
- 公共施設の特性を活かした活用方法の検討
- 企業版ふるさと納税
- 法人税の一部加除